2014年度大学コンソーシアムあきた共同研究の報告書

「秋田の中心市街地の活性化に向けて ―今後の活性化についての研究― 」

共同研究チーム

国際教養大学 勝又美智雄教授<国際化・観光資源>

秋田県立大学 高橋秀晴教授<近代文学>

公立美術大学 島屋純晴教授<現代美術・アート> 2014年度◎プロジェクト代表

公立美術大学 今中隆介教授<プロダクト・空間デザイン>

公立美術大学 長沢桂一准教授 < 現代美術・アート > 公立美術大学 大谷有花准教授 < 現代美術・アート >

*研究期間:2014年8月~2015年2月

*研究のポイント

- (1) 2013 年度までの長期に渡る研究成果を踏まえた、今後の活性化の方向性の研究・調査・提言。
- (2) 秋田市市街地活性化計画が効果的に作用するため、何が必要であり運営方法をどうすべきか。 特にアート・文学等、文化芸術を交流人口拡大に繋げるための観光戦略の調査研究。そうした 観光戦略を活用した先進事例の調査・研究を踏まえた提言。
- (3)調査研究成果を踏まえた、秋田市市街地における、交流人口拡大のための実践的事業のプラン作成、実施方法の研究、その結果を実現するための事業実施。
- *研究の要約:本研究は2008年10月~2011年3月に実施した、4Aプロジェクト『秋田県の活性化のための調査研究2―市街地の賑わい創出、内陸軸観光資源、国際観光資源の視点から―』を起点に 秋田市中心市街地の活性化に向けた調査研究を継続するものである。

2011~2013 年度は、これまでの秋田市中心市街地の活性化における問題点・失敗の原因について調査研究し、包括的な提言を実施してきた。本年度は公立美術大学・島屋純晴<現代美術・アート>が継続的に行なっているアート・文学等、文化芸術を活用した先進事例の調査・研究を踏まえ、より具体的な提言を行うものである。

*2014年度・調査・研究の実施状況

I. 今年度の調査研究の方針と方向性の確認、調整

美術大学研究者による先進事例調査研究・分析、及びこれまでの長期に及ぶ事例調査の取りまとめと、 その調査研究結果に基づく市街地活性化事業の提言及び活性化事業の実践。

Ⅱ. 石川県金沢市のアート・文化活用事例調査

島屋純晴教授<現代美術・アート・立体彫刻系>、今中隆介教授<プロダクト・空間デザイン>による、金沢 21 世紀美術館、金沢市民芸術村、アートと観光の融合による市街地活性化の継続的調査研究。金沢市が企画する多層、重層的な展示の現地調査。金沢美術工芸大学教授・金沢アートグミ代表理事、真鍋淳

朗氏との面談、地方都市の美術大学、美術館と、交流人口を生み出す観光戦略についての聴きとり調査。 金沢美術工芸大学教授・城崎英明氏との面談では産学連携・地域連携事業に関する聴きとり調査。

Ⅲ.ART SEED AKITA あーとおおまちの企画・運営について

島屋純晴教授<現代美術・アート・立体彫刻系>、長沢桂一准教授<現代美術・アート・テキスタイルファイバーワーク>、大谷有花准教授<現代美術・アート・現代絵画> 他美術大学研究者による大町地区活性化事業の実践。

第29回、国民文化祭あきた・県民参加事業採択(実施主体・秋田市大町商店会振興組合)・秋田県補助事業のディレクション、プロデュース、展覧会の実施、出品他。国際教養大学・勝又美智雄教授による市民参加型ワークショップの実施。2014年10~11月実施。実際の展覧会実施期間中、2000名を超える来訪者を記録した。

IV. ART SEED AKITA あーとあらや、あらやクラフトフェアの企画・運営について

島屋純晴教授<現代美術・アート・立体彫刻系>、今中隆介教授<プロダクト・空間デザイン>による新屋地区でのアート事業の実施。

全国商店街振興組合連合会・地域商店街活性化事業 (にぎわい補助金) 採択 (実施主体・秋田市新屋商店会振興組合) のディレクション・プロデュース、展覧会の実施。新屋表町のにぎわい創出のためのアイコンオブジェ制作展示、美術工芸短期大学卒業生 (現・クラフト作家として活動する 7 名) の出品によるクラフトフェアーの実施。旧・渡邊幸四郎邸を会場に 1 月 10 (土) ~12 (月)、17 (土)~18 (日)の 5 日間で 700 名を超える来訪者を実現し、空洞化が進む商店街に大きな賑を実現した。

*2014年度・調査・研究の報告

* 本研究に関する論考は、これまで継続実施する上記研究内容・活性化のための提言を包括する形で、 2014年度秋田公立美術大学の研究紀要に掲載予定である。そのため当該研究紀要は2015年3月末日 の出版予定であるが、その論考を本研究の報告書の一部として、添付させていただきます。

*2015年度以降の・調査・研究 方針と方向性、継続について

- * これまでの本研究に関する報告・論考を踏まえ、今後、街の活性化に向け実効的な成果を実現する 方向で研究活動を継続することを確認する。
- * 特にアート、デザイン、文学、観光資源としての地域文化の活用の実現研究の実施。
- * @Art Seed AKITA・アートおおまち、あーとあらや・クラフトフェアの継続実施の可能性調査と実現に向けた検討
 - @その他県内地域、仙北市、由利本荘市でのアート・デザイン活用による街の活性化研究と実現
 - @自治体に加え、民間企業との協同による地域活性化の研究と実践・実現
 - @その他、県内地域でのアート・デザイン・文学・観光資源としての地域文化の活用による街の 活性化研究と実行
 - @これまでの先進事例等の研究調査の継続と、調査研究範囲の拡大
- * なお、今年度の研究者6名に加え、昨年度以前に研究グループに所属した研究者を加え、新たな研究グループを構成し、当研究を継続・発展させる予定である。